

背景・目的

当医療法人は昭和50年の開業以来19床の有床診療所を中核とし、鹿児島市北部を中心に在宅医療を展開している。

2006年4月、内村川上内科が在宅療養支援診療所となつてから介護老人保健施設（70床）、3カ所7ユニットのグループホーム、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所などと密接に連携し、医療と介護の両面から地域に密着したサービスを提供している。

また、団塊世代の高齢化がピークとなる2025年に向けて、毎年のように改正される医療保険制度あるいは介護保険制度によって医療機関や介護施設に長期入院や長期入所ができなくなった患者・利用者が低コストで安心して最期を迎えられる場を提供できないか当医療法人は平成16年ごろから取り組んできた。その中で、生活の拠点となる「住まい」に関する当法人としての取り組み、つまり、医療と介護のサービスを一つの法人で提供し、患者・利用者が安心して暮らせる一つの新しい「在宅」についての取り組みを報告する。

新しい「在宅」，高専賃『星空』の現状

- 1.家賃や管理料を食費・光熱費込みで10万円以下という低料金に抑えた。
- 2.在宅療養支援診療所と連携することにより24時間365日の医学管理を受けられる。
- 3.小規模多機能型居宅介護サービスと連携することにより24時間365日の介護サービス提供を実現できる。
- 4.入居者19人中14人（73.6%）が在医総管による在宅医療を受け、19人中11人(58%)が小規模多機能型居宅介護サービスを受けている。両者の併用により全入居者の47.4%が「医療と介護の24時間サポート体制」を実現している。

(平成20年11月現在)

新しい「在宅」の住民

1. 自宅がない方々
2. 自宅があっても家の構造上の問題のある方々
3. 同居家族の事情で自宅に帰れない方々

ま と め

- 1.在宅復帰困難な患者・利用者に『安心ハウス』という法人独自の取り組みで生活の場を提供し始めたが、その発展型として制度化された『高専賃』が新しい「在宅」として機能している。
- 2.新しい「在宅」に在医総管による在宅医療と小規模多機能型介護サービスを導入すると「医療と介護の24時間サポート体制」を実現できる。
- 3.新しい「在宅」は尊厳あるターミナルケアまで担えるものである。
- 4.医療機関や介護老人保健施設から在宅復帰の準備をするための受け皿として可能性がある。